

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月25日

事業所名 ウィズしもつま

	チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	33%	67%	0%		・現在利用者の増加により、従業員の増員を行っている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	33%	67%	0%		・利用者の実態に合わせて、より環境を整えていく。事業所の移転も視野に入れている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83%	17%	0%		・目標の設定、利用者の情報共有に正社員とパート・アルバイトで差が生じていることが課題。各々が不在時の状況も把握していけるよう仕組みを構築していく必要がある。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%	0%	・ホームページに公表している。	・利用者や保護者ファーストを心掛けている事業所であると感じている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	67%	17%	0%	・ホームページに公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	50%	17%		・第三者委員会の実施は行っていない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	・令和6年よりスキルアップ支援制度を導入した。	・研修制度は勉強になっている。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		・職員間での日々のコミュニケーションを大切にし、お子様一人ひとりに合った個別支援計画の作成に努めております。
適切な支援の提供	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	33%	0%		・アセスメントシートを5領域(「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」)に対応する等より充実したものに整備していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	67%	33%	0%		・活動プログラムの立案に全員の従業員が参加していけるよう仕組みを構築していく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	17%	0%		ミーティングや適宜職員間でのコミュニケーションを取りながら引き続き努めていく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	・集団活動の際もグループ分けを行う等、利用者の実態に合わせた活動を提供している。	ミーティングや適宜職員間でのコミュニケーションを取りながら引き続き努めていく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	代表が中心となって行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50%	33%	17%		・退勤時間や帰りの送迎の都合により、当日に支援の振り返りが出来ない。記録の記入や翌日の打ち合わせを充実していく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	・記録の研修や記入例の作成も行いながら、質の高い記録の記入に努めている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%		

19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	100%	0%	0%		
----	---------------------------------	------	----	----	--	--

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	33%	50%	17%	・現在医療的ケアの利用者の受け入れはしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	0%	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	0%	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	17%	17%	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	17%	67%	17%	・現在学童等の交流は行えていない。要検討とする。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	67%	17%	・参加出来ていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	67%	33%	0%	・保護者勉強会は実施したが、回数が少なく来年度は多く開催していけるよう努めていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	0%	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	33%	17%	・利用者の状況等を踏まえると現在は事業所への地域住民の招待は考えていないが、地域のボランティアを呼び行える活動も模索していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	・ホームページに公表している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	83%	17%	0%	・契約時に必ず身体拘束についての説明、実施の際の同意書はいただいている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	17%	0%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%	0%		・ヒヤリハットは作成しているが、周知しやすいようまとめられていない為、事例集を作成していく。